

日本郵船・JMU、JFE向け次世代型ばら積み船契約

Edited By LogisticsToday On 2019/07/11

日本郵船とジャパンマリンユナイテッド（JMU）は10日、次世代省エネ型ばら積み船1隻の建造契約を締結した、と発表した。2021年の竣工後は日本郵船がJFEスチールと締結した長期用船契約に基づき原料輸送に従事することが決まっている。日本郵船は景気動向に左右されない長期契約による運賃安定型収益を目指しており、今後も同様の契約を積み上げたい考え。

船はケーブサイズバルカーで、主に太平洋の鉄鉱石や石炭の輸送に使用し、窒素酸化物（NOx）排出規制やSOx（硫黄酸化物）排出規制に対応。JMUの従来船と比べて貨物スペースを増やししながら燃費の低減を実現する次世代省エネ船で、2020年以降の契約船に適用されるGHG（温室効果ガス）排出規制に適合する。また、JFEスチールが開発した石炭カーゴホールド耐食鋼を採用することで、耐食性向上も実現するという。

新造船の概要

全長 : 299.9メートル 全幅 : 50メートル 深さ : 25メートル 総トン数 : 10万8900トン 載貨重量トン数 : 21万1000トン 船籍 : パナマ

Article printed from Logistics Today | 国内最大の物流ニュースサイト : <http://www.logi-today.com>

URL to article : <http://www.logi-today.com/346430>

Copyright © 2019 Logistics Today | 国内最大の物流ニュースサイト. All rights reserved.